

# ソデイカ情報

2003年2月発行

## 第9号

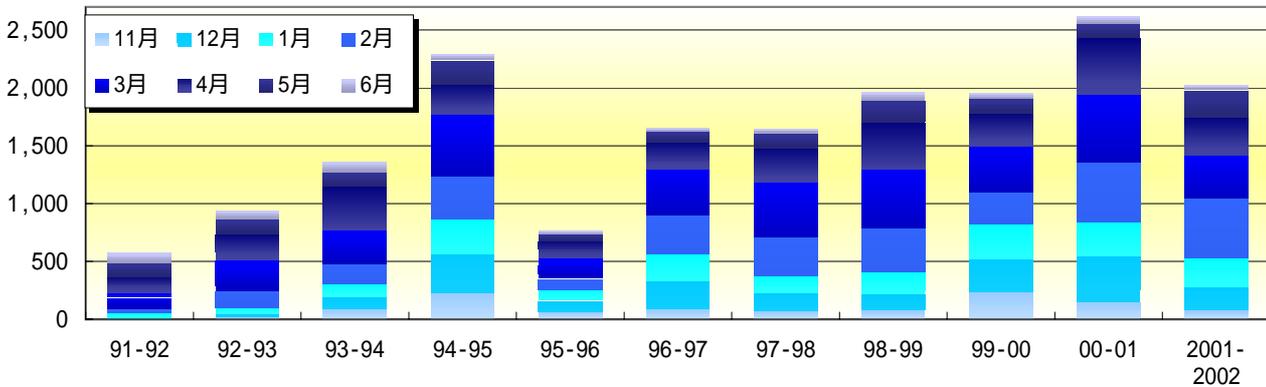
### 【沖縄県内のソデイカ漁獲量の推移とその傾向について】

下の図は、1991年から2002年までの沖縄県全体のソデイカ漁獲量です。00-01というのは、2000年11月から2001年6月の漁期を表しています。

漁獲量は、水産試験場が毎月各漁協から提供していただいている市場情報を基に集計していますが、最近では、市場外流通（セリに掛けられないもの）が多くなってきたため、漁協別の聞き取り調査も参考に集計しています。

豊漁であった94-95漁期の翌年95-96漁期は漁獲量が急減しましたが、その後は比較的安定して推移していました。00-01漁期は盛漁期の3月とその前後月の漁獲量が非常に好調で、漁期全体としても2,617tの漁獲があり、過去最多となりました。それに対して2001-2002漁期の漁獲量は、約23%減の2,028tでした。漁獲量が順調に推移してきた96-97漁期以降の6漁期平均漁獲量(1,976t)に比べると、平均をやや上回る漁獲でした。

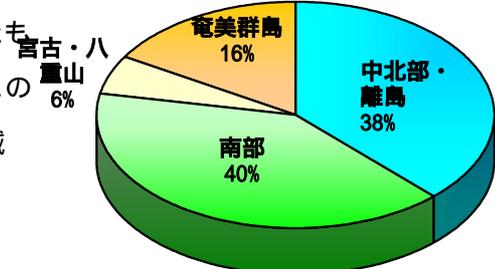
t 沖縄県内での漁期別月別漁獲量1991-2002



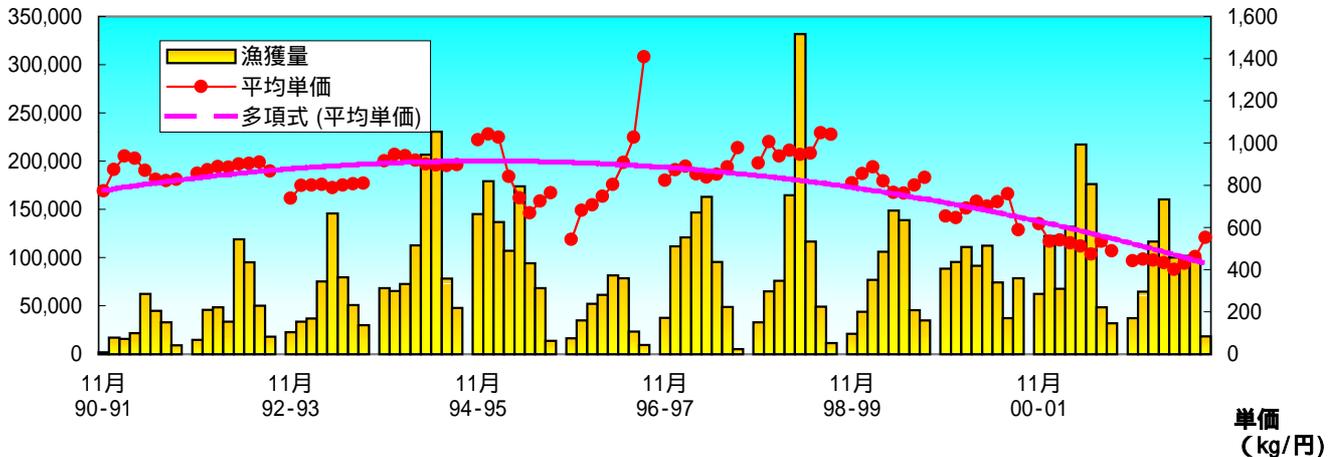
### 【地域別漁獲量】

右の図は、沖縄県内と奄美群島の漁獲比率について示したものです。

奄美でも00-01漁期に、過去最高の555tの漁獲があり、この漁期の沖縄・奄美海域での漁獲量は、3,172tとなりました。2001-2002漁期は、奄美では、00-01漁期に比べて3割減の394tでした。沖縄・奄美海域の2001-2002漁期の漁獲量は、2,419tで00-01漁期に比べて約24%の減少となりました。



南部3漁協における月別漁獲量と平均単価の推移



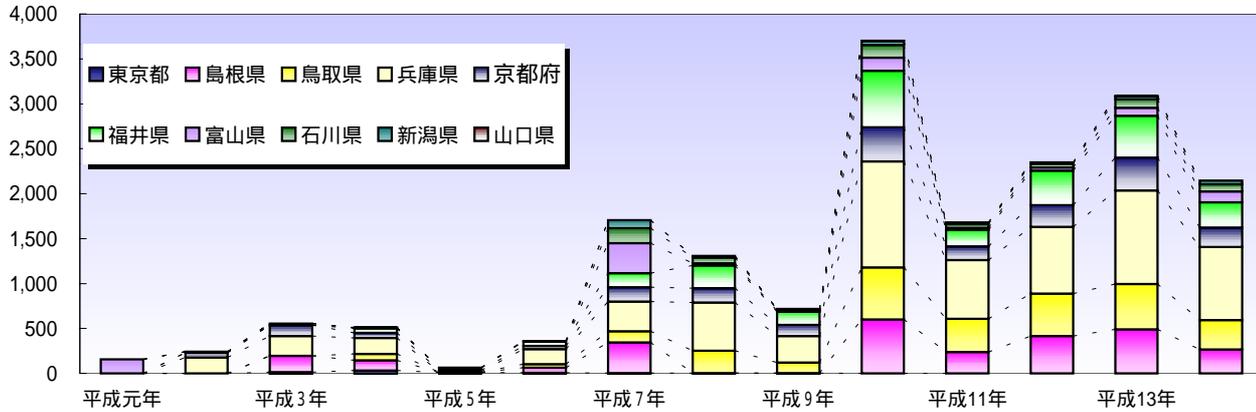
\*南部3漁協：本島南部の糸満・知念・港川の3漁協

# 沖縄県水産試験場

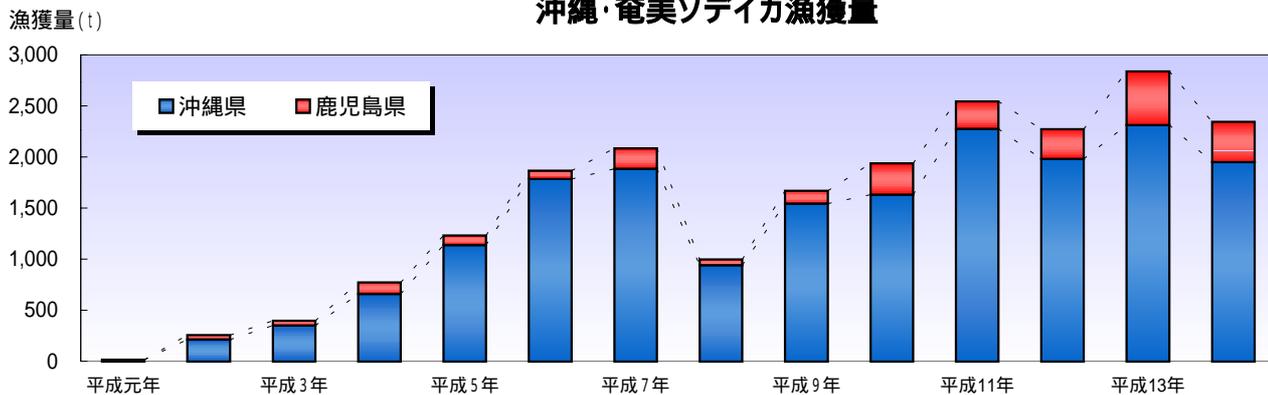
901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号  
 電話 098-994-3593・3597  
 ファクシ 098-995-2357  
 担当者 加藤美奈子（漁業室）  
 E-mail katoumnk@pref.okinawa.jp  
 URL



## 日本海ソデイカ漁獲量



## 沖縄・奄美ソデイカ漁獲量



\*鹿児島・山口・島根・鳥取・兵庫・京都・福井・富山・石川・新潟・東京の各水産試験場の提供されたデータをもとに作成。  
 \*平成14年で、鹿児島県のデータは6月までの集計。  
 \*日本海側の漁獲盛期は9月～12月。鹿児島県での漁期は11月～6月。沖縄県での漁期は12月～6月。  
 \*他都府県の集計にあわせるため、上の2つの図では年集計に統一している。

### 【ソデイカの漁獲量と単価】

左側の図は、南部3漁協（糸満・知念・港川）でのソデイカの月別漁獲量と平均単価について示したものです。

漁獲量と価格の関係は、様々な要因が影響するため、単純に漁獲の増減が価格に反映するとは限りません。県外出荷が主体のソデイカの場合、漁獲から消費されるまでの期間が比較的長く、漁獲時期と消費時期にずれがあるため、漁獲量の増減が価格に反映されるまでには、時間差が発生しています。

また、他の競合するイカ類の動向も影響しています。98-99漁期以降、ソデイカの平均単価は下落傾向にあり、00-01の平均単価は527kg/円でしたが、2001-2002漁期の平均単価は451kg/円でした。2001-2002漁期は、漁期終盤にやや価格が上昇していましたが、全体としては、価格の下落傾向は続いています。

### 【全国のソデイカ漁獲状況について】

右上の図は、ソデイカの漁獲がある各都府県の漁獲状況を示したものです。統計の整備がなされていなかったため（特に、ソデイカを区別して集計されていなかった）、過去のソデイカの漁獲状況ははっきりしません。ソデイカの漁獲量が最も多いのは兵庫県で、他に京都府・島根県・鳥取県・福井県・富山県でも多く漁獲されています。奄美・沖縄近海と異なり生息深度が比較的浅いため、定置網によって集中的に漁獲されることもあります。漁法としては、釣り（イカ釣り・樽流しなど）で多く漁獲されています。平成14年は、過去2番目の漁獲を記録した平成13年に比べて30%減の2,146 tの水揚げでした。